

北海道教育大学（大学リレー熟議③）

国立大学法人に置かれている生涯学習系センターへの期待や大学の地域貢献の在り方をテーマに熟議

【日時】平成23年10月21日（金）

【テーマ】開かれた大学に、生涯学習系センターは貢献してきたか

【参加者】80名（8名×10グループ）

※国立大学教職員（24大学）、一般参加者、文部科学省職員等

◆「全国国立大学生涯学習系センター研究協議会（※）」の終了後に開催

参加大学：北海道大学、北海道教育大学、弘前大学、福島大学、茨城大学、宇都宮大学、富山大学、金沢大学、静岡大学、岐阜大学、滋賀大学、大阪教育大学、和歌山大学、鳥取大学、島根大学、山口大学、徳島大学、香川大学、高知大学、大分大学、熊本大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学

（※）全国の国立大学法人における生涯学習の推進に向け、生涯学習系センターの教職員が一同に会し、センター等の管理運営に関する諸課題や生涯学習に係る調査・研究に関する事項等について協議、情報共有を図っている。

【プログラム】

10:10 開会 主催者挨拶 北海道教育大学 学校・地域教育研究支援センター長 眞田雄三
文部科学省生涯学習政策局 生涯学習総括官 杉野 剛

10:20 主催者説明「熟議とは」文部科学省担当者

10:30 熟議（第1部）

※中間講評（文部科学省生涯学習政策局 生涯学習総括官 杉野 剛）

12:00 休憩

13:00 熟議（第2部）

14:00 結果発表

※熟議（第1部）、熟議（第2部）で議論した内容の結果をポスターセッション形式で発表

14:40 講評 北海道教育大学

15:00 閉会

平成23年度「大学リレー熟議」開催要綱
地域と共生する大学づくりのための全国縦断熟議 文部科学省
全国縦断熟議in北海道
開かれた大学に、生涯学習系センターは貢献してきたか
文部科学省が提唱する新しい熟議の形である「熟議」を
とじて、生涯学習社会における生涯学習系センターへの
期待や、大学の地域貢献の在り方について考えます。
■スケジュール■
9:40 受付
10:10 開会
10:20 主催者説明
10:30 熟議（第1部）
12:00 休憩
13:00 熟議（第2部）
14:00 結果発表
14:40 講評・閉会
主催者 文部科学省 生涯学習政策局 生涯学習総括官 杉野 剛
北海道教育大学 学校・地域教育研究支援センター長 眞田雄三
会場 北海道教育大学 札幌中校3階17号 2階 白根ホール
定員 先着20名（定員に限り次第参加可）
問い合わせ先 北海道教育大学 生涯学習政策局 生涯学習総括官 杉野 剛
〒011-778-0210
北海道教育大学 生涯学習政策局 地域連携グループ
URL: <http://www.jku.ac.jp/other/fes2021.html> 後援：文部科学省、北海道教育委員会、札幌市教育委員会



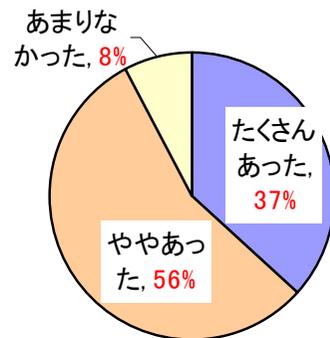
議論の内容(抜粋)

- ・自治体との連携が不足
→人事交流で連携体制を強化、大学と自治体が議論をする場が必要、コーディネートする人材が必要
→大学から地域に歩む寄る必要、サテライトの設置、大学の広報機能の強化 など
- ・大学と地域との関わり方が大きく変化している中、地域課題と向き合う学習機会が十分ではない、本当にニーズとマッチする講座を企画できているだろうか
→地域のニーズを吸い上げ、議論する場を設定することも大学の役割のひとつ。学内で生涯学習実践の成果を共有 など
- ・生涯学習系センターの位置づけの明確化、戦略・ミッションの不在
→社会に創造的に関わる人材の育成センターであるべき。学問知の市民化が必要。ミッションの明確化、学内での位置づけの明確化、エビデンスの獲得 など
- ・事務職員の能力の向上
→事務に対する研修等の充実により専門職化を図るべき など
- ・学内での社会貢献に対する認識不足、評価の難しさ
→大学における生涯学習の再定義、新任ガイダンス等での意識付け、学内意識の共有を図るため「熟議」を活用 など
- ・大学に対する様々な期待に応えられているか
→教職員自身が情報発信力を向上、地域への積極的アプローチにもっと汗をかく など

アンケート結果

N = 52

「とても参考になった」「ためになった」他の参加者の発言・コメントはあったか



「たくさんあった」は10個以上、「ややあった」は5～10個未満。
「あまりなかった」は1～5個未満。

本日の熟議の経験を、今後の活動で活かしたいと思うか

